



放課後等デイサービス見学

教官 中山 美加

近年、発達障害児は人口に占める割合が高く、看護においても地域での乳幼児期から成人期までの一貫した支援が求められています。そのため、瀬戸内市における福祉サービスを理解し、障がいのある子どもやその家族にどのような支援があるのかを学ばせたいと考え、先日 NPO 法人コミュニケーションネットワーク Links の「放課後等デイサービス」の施設見学に行きました。

Links の理事長 渡邊則子先生から、Links の概要や児童発達・放課後等デイサービスや、小規模住居型児童養育事業「ファミリーホーム」についての説明を受け、放課後等デイサービス利用児と関わらせていただきました。

渡邊則子先生のお話の中で、「自己肯定感の獲得を目的とし、人とともに生きていけることを学べるように、子どもの強みを見いだしている。それを産官学と連携・協働しながら支援をしている。」などのお話を聞くことができました。また子どもと関わる上で、学生に「褒めて伸ばそう。できていることに対し、褒めてあげてください。」と伝えられました。

その後、学生は支援員の方々と共に子どもと関わらせていただきました。子どもは、自分でやりたいことを決めて実施し、そのことができたなら支援員の方に伝えていました。

支援員の方から、「すごいね。どうやって使うの?」「いいのができたね。」と伝えられると、嬉しそうな表情で説明をしている子どもの変化をみることができました。また、外でサッカーをする際は、支援員の方が子どもと共にルールを確認しながらサポートをしている状況を見ることができました。



学生は、「渡邊則子先生に言われた『褒めて伸ばす。』ことが、最初はできませんでした。しかし、褒められて変化する子どもの反応や、支援員の方々の関わりをみることで、「褒めて伸ばす」ことの重要性を学ぶことができ、後半には子どもを褒める行動ができるようになりました。子どもが取り組んだことに対し認めることにより、子どもの成長につながっていくことを学ぶことができました。」など、学びを深めることができていました。

11 月には、再度放課後等デイサービスで子どもと関わることができます。次回は、今回の学びを活かし「自己肯定感」の獲得ができるように、積極的に関わられるようにしていきたいと思います。そして、「ファミリーホーム」での児の生活なども理解し、看護師として何ができるのかなど、広い視野で考えられるようにしたいと思います。



<7月9日の山陽新聞にも掲載されました>

